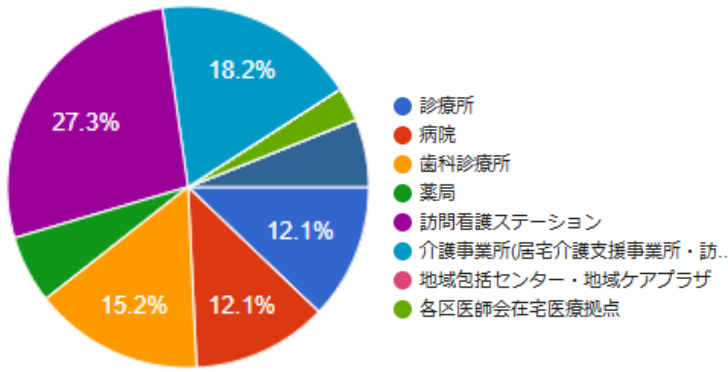


令和6年度疾患別医療・介護連携事業「第2回緩和ケア多職種連携研修(R7.2.14)」
アンケート結果 参加者45名(回答者：33名 回答率：73%)

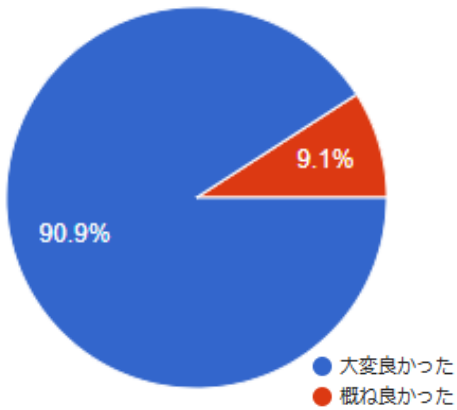
所属



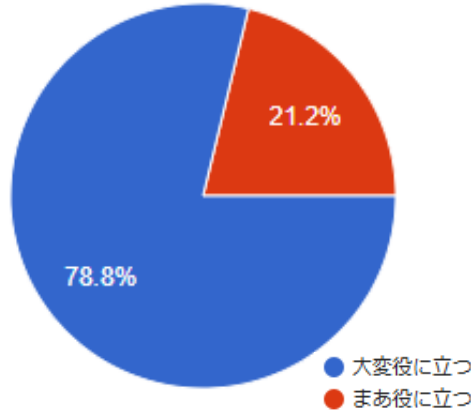
職種

職種	数
看護師/保健師	17
歯科医師	10
主マネ/ケアマネ	4
医師	3
リハビリ職	3
薬剤師	2
管理栄養士/栄養士	1
介護福祉士/介護士	1
その他(不明)	4
合計	45

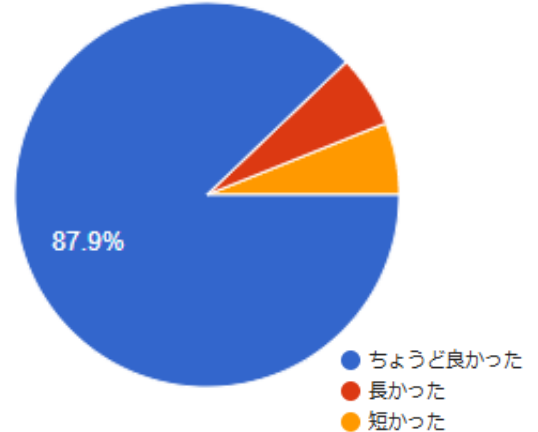
講演について



今後の治療やケアに役立つか



講演時間



印象に残った言葉・感想

- ・動画がたくさんで、お家でのケアの様子が手にとるようにわかりました。ありがとうございました
- ・患者に寄り添い、憂うこと
- ・私は～コーラが飲みたい～
- ・ホールケーキの情報 ありがとうございます
- ・口腔ケア重要性を改めて感じ、日々のケアに取り入れていこうと思いました。
- ・歯科が中心となった在宅支援の具体的な事例を見る事ができ、大変勉強になりました。
- ・一人一人の状況は違うので絶対の正解はない。その方にとっての良い介助を模索していく。
- ・医師の行動変容が必要だと感じました
- ・高齢者施設で勤務しています。入居者様と関われる時間には限りがあり、口腔ケアはケアワーカーに任せております。訪問歯科も入っており、看護師が口腔内の観察をすることが少ないのが現状です。
入居者様がきれいな口でいられるように、食事の様子だけでなく、その後の口腔ケアにも目を向けたいと思いました。
- ・歯科の方と直接関わることがなかったが口腔内の相談などして関わり連携して利用者さんのケアにあたりたいと思った。
事例を通してケアの実際を拝見して口腔ケアの重要性や最期まで食べたいという願いを叶えご本人らしく在宅ならできる関わりをしていきたいと感じた。
素晴らしいご講演ありがとうございました。
- ・患者さんの最期まで寄り添える歯科医師でありたいです
- ・最期まできれいな口と言う言葉は素敵だと思いました
- ・お父様の死後に口腔ケアをされていたのは印象的でした。
- ・最期まで安全に食べれる様に寄り添っていく事

・研修は患者さんの人生を考えて接しているところが魅力的でした。看護師なのに、どうして. . . と思うことが常です。SSTチームを組んで、多職種でカンファレンスとラウンドを行えるようになり少しづつ形になりました。あとは一番近い病棟看護師の力量発揮なんですが、なかなかうまくいきません。知識はあるのですが、多忙から実践に繋がらないのが現実です。

研修も開催しているのですが、繁忙な業務内で実践することが難しいようです。応援したいのですが、私自身、地域包括ケア病棟で患者さんと接していましたが、オペ室異動になりNST委員会で現場の看護師に接することしかできていません。人出不足、繁忙、疲弊している中でどうやったら人生幸せに最期まで口から食べられる支援ができるのか 伝授できるのが課題です。

・チャンスがあるうちにやることをしよう 動画を見ていてご利用者さんは飯田先生、栄養士に出会えて幸せだと感じました ガチャじゃないけど誰に出会えるかだ

・先生のご経験と人生観が詰まった研修で途中で泣きました。会場に来て本当に良かったです。

緩和ケアの看護師として働いていますが「共に憂う」ということをしていかなければと改めて思いました。

「一日の中に笑顔を一つ」お父様の転院日「ここが大事じゃない」など心に残った言葉はいくつもありません。

本当にありがとうございました。

・「年を取るの初めて」という言葉を聞いて思うことがたくさんありました。

誰しも初めての経験をしている道の途中なのだなと改めて感じ頭の中で常にその言葉を忘れないようにし、丁寧な臨床に努めたいと思います

・医療者はつい先のことがわかるため先の事を言ってしまうというのが私の事だなと思いました。STとして食べられなくなるというのがわかってしまうためつい言ってしまうと思いますが、患者さんには初めての事。その気持ちを忘れず介入していきたいと思いました。ありがとうございました

・人生の幕をしめる時、自分は何を求めるだろうか。考えて今回の講義を思い出し答えるケアをしていきたいと思ひます

・感動しました

・特に在宅での看取りの方においては、口腔内乾燥の予防やケアを意識的におこなっていきたくと思ひます。

・「ステートよりペンライト」うちの看護師に聞いたところ、ちょっと違うと思ひ、と。色々あつていいと思ひ。

・匂わない口、人としての尊厳だと思ひます。食べられないからこそ、口腔ケアを丁寧に行つています。